

令和4年度学校評価報告書

北海道旭川南高等学校長 齊 藤 昌 志

1 本年度の重点目標

- (1)授業改善を図り、生徒の意欲を引き出し、確かな学力の向上を図る。
 (2)キャリア意識を高め、主体的に科目選択に努め、第一志望の進路実現を図る。
 (3)規範意識を高めるとともに、いじめ事故根絶に努め、命を大切にする心の育成を図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	新型コロナウイルス感染拡大により、学年閉鎖、学校閉鎖となった時期もあったが、冬季休業期間の短縮やオンライン学習の実施等で授業の確保し、必要な学びの保障を行うよう努めた。年次進行で始まった新学習指導要領の実施と、3年目となる大学入学共通テストをはじめとする新しい大学入試へ対応する授業のあり方等について、校内研修等を通して学校全体で共通理解を図った。	コロナ禍で様々な制限がある中、教職員・生徒・保護者が協力して「今できること」を行ってきた姿勢は評価したい。「都市型進学型総合学科」としての特色を生かした学習活動が、学力向上や様々な成果に結びつき、本校で学ばせたいとの評価につながっていると感じている。今後も継続した取組を期待したい。
改善方策	今後もさらなる授業改善や、探究心・表現力等の育成を図り、「主体的・対話的な深い学び」の推進に努めたい。	
生徒指導	SNS等でのネットトラブル防止に向けて、啓発のための講話を実施する等、保護者、地域、関係機関と連携・協力を図りながら、全教職員の共通理解の下で生徒指導を行うよう心がけた。	ネットトラブルが起これしまうと学校内のみならず、社会的な反響・影響も大きいことから、SNSの正しい使い方を十分に指導してほしい。
改善方策	管内でも高校生のSNS等でのトラブルが増加傾向にあるので、ルールやマナー等について、あらゆる機会を捉えて、注意喚起を図っていく。今後も学校全体で共通理解の下、事故やトラブルの未然防止に努めたい。	
進路指導	生徒の地元志向が強く、市内の大学の難易度が上昇する中、一定の合格を出すことができた。その他、道外・道内を含めた国公立大学、難関私立大学にも合格者を輩出する等、進学実績において概ね良好な成果を収めた。今年度は新型コロナ禍の中でも計画的な進路学習を行うことができ、フィールドスタディなどの体験学習、大学見学会、キャリア教育や講演会を通して、自己理解・職業理解を深めることができた。	本校に限らず、「目標のない生徒」「目標を見いだせない生徒」が増えてきているように感じる。総合学科として、生徒自身に「その先のライフプラン」をイメージさせるような教育をさらに進めてほしい。進路実績はもちろんだが、本校の教育活動の評価が上がってきているのを感じている。今後も頑張してほしい。
改善方策	今後も多様化する生徒の実態を踏まえ、都市型進学型総合学科の利点を活かした「旭川南高校だからこそできる教育」の実践を継続し、地域から期待される学校づくりに努めたい。	
公表方法	Webページ（学校HP）、学校だより、PTA入会式、PTA総会、学校評議員会等で公表	